

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
											記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
145	35.92	35.95	破砕帯(主せん断面35.92m)	35.92	35.95	破砕部(最新活動面35.92m)			●35.92～35.95m: 破砕部 35.92m: 粘土状部(Hu-1) 傾斜35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒。岩片は殆んど含まない(5%以下)。やや硬質。灰オリーブ色を呈する。幅1～5mm。 35.92～35.95m: 硬質砂状～粘土質礫状部(Hb) 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。径1～2mmの石英粒。径2～5mmの粘土化岩片を20～30%含む。やや硬質。上位のHu-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。灰白色を呈する。幅20mm。		・種軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
146	35.92	35.92	Hc-1 35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒。岩片は殆んど含まない(5%以下)半固結状の粘土(カウソ)。色調は灰オリーブ(4.5Y 6/2)。厚さ1～5mm/m	35.92	35.92	Hc-1 35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続して直線性に乏しい。石英粒。岩片は殆んど含まない(5%以下)やや硬質な半固結状の粘土(カウソ)。色調は灰オリーブ色(4.5Y 6/2)。厚さ1～5mm。	35.92	35.95			
147	35.92	35.95	Hb 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。φ1～2mm/m石英粒。φ2～5mm/m粘土化岩片を20～30%含む半固結状の硬質粘土状を呈する。主せん断面と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。色調は灰白色(2.5Y 8/2)。厚さ20mm/m	35.92	35.95	Hb 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。φ1～2mm石英粒。φ2～5mm粘土化岩片を20～30%含むやや硬質な半固結状の硬質砂状～粘土質礫状を呈する。上位のHu-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。色調は灰白色(2.5Y 8/2)。厚さ20mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。					
148	35.95	36.76	D	-	-	-	35.95	36.76	35.95～36.76m: D	-	
149	-	36.05	36.05m以浅は粘土化済み岩組織が消滅している。	-	-	-	-	36.05	36.05m以浅は粘土化が進み原岩組織は消滅している。	-	
150	36.05	-	36.05m以深 割れ目、岩組織ともに残留。	-	-	-	36.05	-	36.05m以深は割れ目、原岩組織ともに残留する。	-	
151	36.60	36.70	マンガン筋染が著しい。	-	-	-	36.60	36.70	36.60～36.70m: マンガン筋染が著しい。	-	
152	36.76	37.12	CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。	36.76	37.12	CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。	36.76	37.12	36.76～37.12m: CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。	-	
153	37.12	37.60	CM 岩片は硬いが(硬さ「B」)。一部の割れ目で幅1～3mmと薄く砂状化する。	37.12	37.60	CL 岩片は硬いが(硬さ「C」)。一部の割れ目で幅1～3mmと薄く砂状化する。	37.12	37.60	37.12～37.60m: CL 岩片は硬いが(硬さ「C」)。一部の割れ目は幅1～3mmで薄く砂状化する。	-	
154	37.12	37.60	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	37.12	37.60	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	37.12	37.60	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	-	
155	37.12	45.96	(変質欄)3ランク	37.12	45.96	(変質欄)2ランク	37.12	45.96	(変質欄)2ランク	-	
156	37.60	38.05	CL 割れ目ぞいに幅10mm程度で風化が進行している。	37.60	38.05	CL 割れ目ぞいに幅10mm程度で風化が進行している。	37.60	38.05	37.60～38.05m: CL 割れ目ぞいに幅10mm程度で風化が進行している。	-	
157	38.05	38.46	(割れ目状態欄)Bランク (岩級区分欄)CM	38.05	38.46	(割れ目状態欄)Cランク (岩級区分欄)CL	38.05	38.46	(割れ目状態欄)Cランク (岩級区分欄)CLに含める	-	
158	38.05	38.46	CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には挟雑物は含まれない。	38.05	38.46	CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には粘土や砂を挟む。	38.05	38.46	38.05～38.46m: CM 岩片は硬質で割れ目が少ないが、割れ目には粘土や砂を挟む。	-	
159	38.46	39.78	CL	-	-	-	38.46	39.78	38.46～39.78m: CL	-	
160	39.60	39.69	硬さ「D」ないし「E」で、上端側は砂状化している。	-	-	-	39.60	39.69	39.60～39.69m: 硬さ「D」ないし「E」で、上端側は砂状化している。	-	
161	38.46	39.37	(風化欄)δランク	38.46	39.37	(風化欄)γランク	38.46	39.37	(風化欄)γランク	-	
162	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Cランク	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Dランク	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Dランク	-	
163	39.78	40.23	D 岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目ぞいに厚さ5～10mmで砂状化。	39.78	40.23	D 原岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目ぞいに厚さ5～10mmで砂状化。	39.78	40.23	39.78～40.23m: D 原岩組織と割れ目は残留。一部の割れ目ぞいに幅5～10mmで砂状化。	-	
164	39.78	40.23	(岩級区分欄)D	39.78	40.23	(岩級区分欄)CL	39.78	40.23	(岩級区分欄)CLに含める	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
165	40.23	41.90	CL 20~40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。 割れ目には薄く砂、粘土、マンガンをはさむことが多い。	40.23	41.90	CL 20~40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。 割れ目には薄く砂、粘土、マンガンをはさむことが多い。	40.23	41.90	40.23~41.90m:CL 20~40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。 割れ目には薄く砂、粘土、マンガンをはさむことが多い。	
166	-	-	-	40.30	40.80	高角度割れ目沿いにマンガン濃集が見られる	40.30	40.80	40.30~40.80m:高角度割れ目沿いにマンガン濃集が見られる。	
167	41.70	41.81	φ5~10m/mlに硬化するが、これはコアチューブ引き上げ時に砕けたものである	41.70	41.81	φ5~10mmに硬化するが、これはコアチューブ引き上げ時に砕けたものである	41.70	41.81	41.70~41.81m:コアチューブ引き上げ時の擾乱で、径5~10mmに硬化する。	
168	41.90	43.94	D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。糊った砂状部と硬さDのφ10~20m/m岩片からなる「砂礫状」を呈する部分が主体。 岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。	41.90	43.94	D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。糊った砂状部と硬さDのφ10~20mm岩片からなる「砂礫状」を呈する部分が主体。 岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。	41.90	43.94	41.90~43.94m:D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。硬質な砂状部と硬さDの径10~20mmの岩片からなる砂礫状を呈する部分が主体。原岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。	
169	-	-	-	42.30	42.30	45°の割れ目に幅10mmの灰黄色粘土を挟在する。	42.30	42.30	42.30m:45°の割れ目に幅10mmの灰黄色粘土を挟在する。	
170	43.09	43.30	硬さ「D」が中石的に残留している。	-	-	-	43.09	43.30	43.09~43.30m及び43.50~43.71m:硬さ「D」が中石的に残留している。	-硬さDを中石的に残留する区間をまとめて書きした
171	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Eランク	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Dランク	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Dランク	
172	43.50	43.71	硬さ「D」が中石的に残留している。	-	-	-	-	-	-	-上記にまとめて書きしたため記載しない
173	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Eランク	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Dランク	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Dランク	
174	43.46	43.55	割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい。色調は黒褐色化する。	43.46	43.55	割れ目沿いにマンガン鉱染が著しい。色調は黒褐色化する。	43.46	43.55	43.46~43.55m:割れ目沿いのマンガン鉱染が著しい。黒褐色化を呈する。	
175	43.94	45.96	C 割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。	43.94	45.96	CL 割れ目沿いに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。	43.94	45.96	43.94~45.96m:CL 割れ目沿いに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。	
176	44.77	44.77	45° 割れ目ぞい幅20~25m/mは淡緑灰色化する。緑泥石化変質と推定される。	44.77	44.77	45° 割れ目ぞい幅20~25mmは淡緑灰色化する。緑泥石化変質と推定される。	44.77	44.77	44.75m:45°の割れ目沿いに幅20~25mmで緑泥石化変質により淡緑灰色化する。	
177	45.10	45.25	硬さ「C」の硬質岩片が分布	-	-	-	45.10	45.25	45.10~45.25m:硬さ「C」の硬質岩片が分布。	
178	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Dランク	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Cランク	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Cランク	
179	45.96	46.31	硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1~3m/m程度で砂状化する。	45.96	46.31	硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1~3mm程度で砂状化する。	45.96	46.31	45.96~46.31m:硬さ「C」で硬質。割れ目は幅1~3mm程度で砂状化する。	
180	46.31	46.49	(割れ目状態欄)Iランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	46.31	46.49	(割れ目状態欄)IIランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク	46.31	46.49	(割れ目状態欄)IIランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク	
181	46.31	47.90	(変質欄)3ランク	46.31	47.90	(変質欄)2ランク	46.31	47.90	(変質欄)2ランク	
182	46.73	46.90	(割れ目状態欄)Iランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	46.73	46.90	(割れ目状態欄)IIランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク	46.73	46.90	(割れ目状態欄)IIランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク	
183	46.73	47.06	(岩級区分欄)JL	46.73	47.06	(岩級区分欄)D	46.73	47.06	(岩級区分欄)D	
184	46.74	46.85	割れ目ぞいに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。	46.73	46.85	割れ目沿いに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。	46.73	46.85	46.73~46.85m:割れ目沿いに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。	
185	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Dランク	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Cランク	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Cランク	
186	47.90	47.06	珪化により二次石英がφ1~3m/m斑点状~幅1~2m/mの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。	46.90	47.06	珪化により二次石英がφ1~3mm斑点状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。	46.90	47.06	46.90~47.06m:珪化による二次石英が径1~3mmの斑点状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。	



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
107	47.00	47.50	D 岩組織と割れ目は消滅している。 硬さ「D」主体のφ3~10m/mの細岩片化している。	46.73	47.50	D 原岩組織と割れ目は消滅している。 硬さ「D」主体のφ3~10mmの細岩片化している。	46.73	47.50	46.73~47.50m: D 原岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体の径3~10mmに細岩片化している。	-	
188	47.50	48.80	CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体、47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。	47.50	48.08	CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体、47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。	47.50	48.08	47.50~48.08m: CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体、47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化が進み、岩片自身も軟質化している。	-	
189	47.85	48.08	(風化欄)δランク	47.85	48.08	(風化欄)γランク	47.85	48.08	(風化欄)γランク	-	
190	48.08	48.12	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)αランク (変質欄)2ランク	48.08	48.12	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)εランク (変質欄)4ランク	48.08	48.12	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)εランク (変質欄)4ランク	-	
191	48.12	48.16	上端30°、下端20°の割れ目に囲まれ締った砂状化を呈する。	48.84	48.88	上端20°、下端38°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。	48.84	48.88	48.84~48.88m: 上端20°、下端38°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。	-	
192	48.12	48.52	(風化欄)δランク	48.12	48.52	(風化欄)γランク	48.12	48.52	(風化欄)γランク	-	
193	48.40	48.49	48.40~48.49mも上記同様に締った砂状化を呈する。	48.51	48.60	硬質な砂状化を呈する。	48.51	48.60	48.51~48.60m: 硬質な砂状化を呈する。	-	
194	48.49	48.88	60~70°割れ目主体、割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は主せん断面と同方向に近い)	48.12	48.51	60~70°割れ目主体、割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は上位の破砕部と同方向に近い)	48.12	48.51	48.12~48.51m: 60~70°の割れ目が主体、割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。これらの割れ目は上位の破砕部と同方向に近い。	-	
195	48.52	48.85	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)αランク	48.52	48.85	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)εランク	48.52	48.85	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)εランク	-	
196	48.85	49.08	(風化欄)δランク	48.85	49.08	(風化欄)γランク	48.85	49.08	(風化欄)γランク	-	
197	48.88	48.92	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)εランク (変質欄)2ランク (岩級区分欄)D	48.88	48.92	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)αランク (変質欄)2ランク (岩級区分欄)CL	48.88	48.92	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)αランク (変質欄)2ランク (岩級区分欄)CL	-	
198	48.88	48.88	(破砕度区分欄)Hc-2	48.88	48.88	(破砕度区分欄)空欄	48.88	48.88	(破砕度区分)-	-	
199	48.88	48.92	(破砕度区分欄)Hb	48.88	48.92	(破砕度区分欄)空欄	48.88	48.92	(破砕度区分)-	-	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
200	48.88	48.92	48.08	48.12	破砕部(最新活動面48.12m)	48.08	48.12	●48.08～48.12m:破砕部 40.00～40.12m:粘土質硬状部(Hb) 上端53°、下端56°でいずれも直線的に連続。径1～3mmの石英粒、径3～5mmの硬さ「D」岩片を20～30%含む。やや硬質。上端部にマンガン鉱染を伴う。灰黄褐色～黒褐色(上端部のみ)を呈する。幅20mm。 48.12m:礫混じり粘土部(Hc-2) 傾斜56°で上下端とも直線的に連続。径0.5～1mmの石英粒を20%程度含む。やや硬質。黒褐色を呈する。幅1mm。マンガン鉱染を伴っている。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
201	48.88	48.92	48.08	48.12	Hb 上端56°、下端53°でいずれも直線的に連続。φ1～3mm石英粒、φ3～5mm硬さ「D」岩片を20～30%含む。やや硬質な「粘土質硬状」を呈する。上端部にマンガン鉱染を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)～黒褐色(10YR3/1)で、厚さ20mm。 含まれる細粒部の連続性・直線性が乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はマンガン汚染で不明。	48.08	48.12	Hb 上端53°、下端56°でいずれも直線的に連続。φ1～3mm石英粒、φ3～5mm硬さ「D」岩片を20～30%含む。やや硬質な「粘土質硬状」を呈する。上端部にマンガン鉱染を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)～黒褐色(10YR3/1)で、厚さ20mm。 含まれる細粒部の連続性・直線性が乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はマンガン汚染で不明。	
202	48.88	48.88	48.12	48.12	Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5～1mmの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土(ガウソ)。色調は、黒褐色(10YR 3/1)、厚さ1m/m、マンガン鉱染を伴っている。	48.12	48.12	Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5～1mmの石英粒を20%程度含むやや硬質な礫混じり粘土(砂ラジ)。色調は黒褐色(10YR 3/1)、厚さ1mm、マンガン鉱染を伴っている。	
203	48.08	48.12	48.08	48.12	(破砕度区分欄)空欄	48.08	48.12	(破砕度区分)Hb	-
204	48.12	48.12	48.12	48.12	(破砕度区分欄)空欄	48.12	48.12	(破砕度区分)Hc-2	-
205	48.92	52.42	48.12	52.42	CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体	48.12	52.42	CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体	-
206	49.00	49.34	49.00	49.34	割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。	49.00	49.34	割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。 <b>割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。</b> 密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。	-
207	49.08	49.42	49.08	49.42	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク	49.08	49.42	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	-
208	50.44	50.67	-	-	硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。	-	-	50.44～50.67m:硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。	-
209	50.44	50.67	50.44	50.67	(コアの硬さ欄)Cランク	50.44	50.67	(コアの硬さ欄)Bランク	-
210	50.11	50.44	50.11	50.44	(コアの形状欄)IVランク	50.11	50.44	(コアの形状欄)Vランク	-
211	50.66	51.06	50.66	51.06	(コアの形状欄)IVランク	50.66	51.06	(コアの形状欄)Vランク	-
212	50.81	51.06	50.81	51.06	(コアの硬さ欄)Cランク	50.81	51.06	(コアの硬さ欄)Dランク	-
213	51.15	51.50	51.15	51.50	上下位より石英斑晶がφ5～15m/mと大型化する(上下位側はφ5mm前後主体)。	51.15	51.50	51.15～51.50m:上下位より石英斑晶が径5～15mmと大型化する(上下位側は径5mm前後主体)。	-
214	51.51	-	51.51	-	51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10～30m/m硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。	51.51	-	51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10～30mm硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。	-
215	51.51	52.42	51.51	52.42	(変質欄)3ランク	51.51	52.42	(変質欄)2ランク	-
216	52.18	52.22	52.18	52.22	「細礫混じり粗粒砂」状を呈する	52.18	52.22	52.18～52.22m:コアチューブ引き上げ部で、細礫混じり粗粒砂状を呈する。	-



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
217	52.42	52.99	CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も 割れ目は厚さ2~3mm/mで砂状化することが多い。	52.42	52.99	CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も 割れ目は厚さ2~3mmで砂状化することが多い。	52.42	52.99	52.42~52.99m: CM 岩片は硬質であるが、一部に密着度の低い割れ目も 割れ目は厚さ2~3mmで砂状化することが多い。	
218	52.99	53.20	CL 割れ目でいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ 目が多い。	52.99	53.20	CL 割れ目沿いに砂状化進む。消滅しかかっている割れ 目が多い。	52.99	53.20	52.99~53.20m: CL 割れ目沿いに砂状化が進む。消滅しかかっている割れ目 が多い。	
219	52.99	53.20	(岩級区分欄)CL	52.99	53.20	(岩級区分欄)D	52.99	53.20	(岩級区分欄)Dに含める	
220	52.99	54.60	(変質欄)3ランク	52.99	54.60	(変質欄)2ランク	52.99	54.60	(変質欄)2ランク	
221	53.20	53.55	(風化欄)εランク	53.20	53.55	(風化欄)δランク	53.20	53.55	(風化欄)δランク	
222	53.20	53.55	D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しか かかっているものが多い。硬さ「D」のφ10mm程度の 岩片が散在している。	53.20	53.55	D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しか かかっているものが多い。硬さ「D」のφ10mm程度の 岩片が散在している。	53.20	53.55	53.20~53.55m: D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかか かっているものが多い。硬さ「D」のφ10mm程度の 岩片が散在している。	
223	53.55	54.10	CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体不均質。 長石は大半が白濁化する。	-	-	-	53.55	54.10	53.55~54.10m: CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体が不均質。長石は 大半が白濁化する。	
224	54.10	54.72	D 風化で砂状化著しい	-	-	-	54.10	54.72	54.10~54.72m: D 風化で砂状化が著しい。	
225	54.37	54.46	硬さ「E」の岩片が残留する。	54.37	54.46	硬さ「D」の岩片が残留する。	54.37	54.46	54.37~54.46m: 硬さ「D」の岩片が残留する。	
226	54.37	54.40	(コアの硬さ欄)Eランク	54.37	54.40	(コアの硬さ欄)Dランク	54.37	54.40	(コアの硬さ欄)Dランク	
227	54.00	-	54.60m以深では粘土化も進む。	-	-	-	54.60	-	54.60m以深は粘土化が進む。	
228	54.60	55.00	(変質欄)4ランク	54.60	54.72	(変質欄)3ランク	54.60	54.72	(変質欄)3ランク	
229	54.72	54.77	破砕帯(主せん断面、54.77m)	54.72	54.77	破砕帯(最新活動面、54.77m)	54.72	54.77	●54.72~54.77m: 破砕部 54.72~54.77m: 粘土質塊状部(Hb) 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。径2~4mmの石英粒と 粘土化した径5~10mmの岩片を30~50%含む。軟質。マンガン鉱染を一部 に伴う。明褐色を呈する。幅40~50mm。 54.77m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜39°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない (5%以下)。軟質。灰褐色を呈する。幅3mm。	●種軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組 織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で 示すこととし、柱状図には記載しない。
230	54.72	54.77	Hb 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2 ~4mm/石英粒と粘土化したφ5~10mm/岩片を30 ~50%含む軟質な「硬質粘土状」ないし「凝滞し」粘 土状」を呈する。マンガン鉱染を一部に伴う。 色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ40~50m	54.72	54.77	Hb 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2 ~4mm/石英粒と粘土化したφ5~10mm/岩片を30~ 50%含む軟質な「硬質粘土状」を呈する。マンガン 鉱染を一部に伴う。 色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ40~50mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認 められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片から なる組織が見られる。	54.72	54.77	●54.72~54.77m: 破砕部 54.72~54.77m: 粘土質塊状部(Hb) 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。径2~4mmの石英粒と 粘土化した径5~10mmの岩片を30~50%含む。軟質。マンガン鉱染を一部 に伴う。明褐色を呈する。幅40~50mm。 54.77m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜39°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない (5%以下)。軟質。灰褐色を呈する。幅3mm。	●種軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組 織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で 示すこととし、柱状図には記載しない。
231	54.77	54.77	Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆 んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガワン)。色調は 灰褐色(7.5YR 5/2)。厚さ3mm/m	54.77	54.77	Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆 んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガワン)。色調は 灰褐色(7.5YR 5/2)。厚さ3mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒 化した岩片からなる組織は見られない。				
232	54.77	55.24	D 全体に粘土化進む	-	-	-	54.77	55.24	54.77~55.24m: D 全体に粘土化が進む。	
233	-	55.00	55.00m以浅では岩片やマンガン鉱染部を脈状に含 む。	-	-	-	-	55.00	55.00m以浅は岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。	
234	55.00	-	55.00m以深では白色粘土部や赤灰色粘土細脈を 多く含む。	-	-	-	55.00	-	55.00m以深は白色粘土部や赤灰色粘土細脈を多く含む。	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	選定した記事内容		
	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
235	55.24 57.70	CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目 <sup>1</sup> に風化が進む部分では硬さ「C」や綺麗な砂状部も分布する。 割れ目 <sup>1</sup> にマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	55.24 57.70	CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目 <sup>1</sup> に風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。 割れ目 <sup>1</sup> にマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	55.24 57.70	55.24~57.70m: CL 硬さ「D」岩片が主体、割れ目 <sup>1</sup> に風化が進む部分では硬さ「C」や硬質な砂状部も分布する。割れ目 <sup>1</sup> にマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。			
236	55.24 60.26	(変質欄)のランク	55.24 60.26	(変質欄)のランク	55.24 60.26	(変質欄)のランク			
237	56.83 57.00	割れ目 <sup>1</sup> の風化が進み、砂状化。残留する硬さDのφ5~10mm岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。	56.83 57.00	割れ目 <sup>1</sup> の風化が進み、砂状化。残留する硬さDのφ5~10mm岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。	56.83 57.00	56.83~57.00m: 割れ目 <sup>1</sup> の風化が進み、砂状化する。残留する硬さ「D」の径5~10mmの岩片とともに砂礫状を呈する。			
238	57.00 57.45	密着度の低い割れ目が密集し、φ10m/m程度に細岩片化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。	57.00 57.45	密着度の低い割れ目が密集し、φ10mm程度に細岩片化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。	57.00 57.45	57.00~57.45m: 密着度の低い割れ目が密集し、径10mm程度に細岩片化する。硬さ「C」の岩片も多く含む。			
239	57.45 57.70	割れ目 <sup>1</sup> に砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。	57.45 57.70	割れ目 <sup>1</sup> に砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。	57.45 57.70	57.45~57.70m: 割れ目 <sup>1</sup> に砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。			
240	57.70 57.99	(コアの硬さ欄)のランク (岩級区分欄)D	57.70 57.99	(コアの硬さ欄)のランク (岩級区分欄)CL	57.70 57.99	(コアの硬さ欄)のランク (岩級区分欄)CL			
241	57.70 57.99	D 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、綺麗な砂状部が主体である。	57.70 57.99	CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。	57.70 57.99	57.70~57.99m: CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。			
242	57.99 58.28	CL 岩片は硬さが20~30° 割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。	57.99 58.28	CL 岩片は硬さが20~30° 割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。	57.99 58.28	57.99~58.28m: CL 岩片は硬さが、20~30° の割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。マンガン鉱染も伴う。			
243	58.28 58.73	OM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	-	-	58.28 58.73	58.28~58.73m: OM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。			
244	58.28 58.73	(岩級区分欄)OM	58.28 58.73	(岩級区分欄)CL	58.28 58.73	(岩級区分欄)CLに含める			
245	58.73 59.71	CL 割れ目 <sup>1</sup> に砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。	58.73 59.71	CL 割れ目 <sup>1</sup> に砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。	58.73 59.71	58.73~59.71m: CL 割れ目 <sup>1</sup> に砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。			
246	59.35 59.54	硬さ「C」主体	-	-	59.35 59.54	59.35~59.54m: 硬さ「C」主体。			
247	59.71 60.00	D 強風化で綺麗な砂状部主体。φ10mm前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。	59.71 60.00	D 強風化で硬質な砂状部主体。φ10mm前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。	59.71 60.00	59.71~60.00m: D 強風化で硬質な砂状部主体。径10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。			
248	60.00 60.26	CL 50~55° 割れ目が主体。 割れ目 <sup>1</sup> にマンガン鉱染を受ける。	60.00 60.26	CL 50~55° 割れ目が主体。 割れ目 <sup>1</sup> にマンガン鉱染を受ける。	60.00 60.26	60.00~60.26m: CL 50~55° の割れ目が主体。割れ目 <sup>1</sup> にマンガン鉱染を受ける。			
249	60.00 60.26	(岩級区分欄)CL	60.00 60.26	(岩級区分欄)D	60.00 60.26	(岩級区分欄)Dに含める			



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
250	60.26	60.69	60.26	60.69	破砕部(最新活動面60.59m)			●60.26～60.69m:破砕部 60.26～60.58m:礫質砂状部(Hj) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5～10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状化部からなる。下端側に下位のHc-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機械割れて全体が礫質砂状化している。にふい黄褐色を呈する。 60.58～60.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜18°で上下端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。軟質。明褐色を呈する。幅10～12mm。 60.59～60.69m:粘土混じり礫状部(Hj) 上端18°で、下端37°の割れ目でいずれも波打って連続。径5～20mmの硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。色調は明褐色(7.5YR 7/2)。厚さ100m/m(コア長)。	
251	60.26	60.58	60.26	60.58	Hj 上端は28°で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5～10mm/m、硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「礫質砂」状を呈する。下端側に下位のHc-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにふい黄褐色(10YR 6/4)。厚さ320m/m(コア長)。 機械割れて全体が礫質砂状化。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	60.26	60.69	●60.26～60.69m:破砕部 60.26～60.58m:礫質砂状部(Hj) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5～10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状化部からなる。下端側に下位のHc-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機械割れて全体が礫質砂状化している。にふい黄褐色を呈する。 60.58～60.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜18°で上下端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。軟質。明褐色を呈する。幅10～12mm。 60.59～60.69m:粘土混じり礫状部(Hj) 上端18°で、下端37°の割れ目でいずれも波打って連続。径5～20mmの硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。色調は明褐色(7.5YR 7/2)。厚さ100m/m(コア長)。	
252	60.58	60.59	60.58	60.59	Hc-1 18°で上下端とも波打って連続。径1mm/m石英粒を約20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10～12m/m。	60.58	60.59	Hc-1 18°で上下端とも波打って連続。径1mm石英粒を約20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10～12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	
253	60.59	60.69	60.59	60.69	Hj 上端18°で、下端37°割れ目でいずれも波打って連続。径5～20mm硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる。色調は明褐色(7.5YR 7/2)。厚さ100m/m(コア長)。	60.59	60.69	Hj 上端18°で、下端37°割れ目でいずれも波打って連続。径5～20mm硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる粘土混じり礫状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)。厚さ100m/m(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
254	60.69	61.29	-	-	D 大半が風化で砂状化。	-	61.29	60.69～61.29m: D 大半が風化で砂状化する。	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)			
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		選定した記事内容		
記事			記事			記事						
記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事			
			追加変更した情報が正しく転記されているか?			追加変更した情報が正しく転記されているか?						
			☑			☑						
			コア観察カードから正しく転記されているか?			追加変更した情報が正しく転記されているか?						
			☑			☑						
255	61.29	61.69	破砕帯(主せん断面61.41m) <D-1>	61.29	61.69	破砕部(最新活動面61.43m) <D-1>			●61.29~61.69m:破砕部 61.29~61.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHc-1の粘土とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなる。にぶい橙色を呈する。幅100mm。 61.41~61.43m:粘土状部(Hc-1) 傾斜50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3mmの岩片を約5%含む。やや軟質、灰黄褐色を呈する。幅5~15mm。 61.43~61.69m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ[D]の径5mmの岩片と、岩片間の斑点状~細脈状(幅1mm)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)~灰白色(10YR 8/2)、厚さ260m/m(コア長)			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
256	61.29	61.41	Hj 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。主せん断面とは90°方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)、厚さ100m/m	61.29	61.41	Hj 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHc-1の粘土とほぼ同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)、厚さ100mm やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
257	61.41	61.43	Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ3mm/岩片を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)、厚さ5~15m/m	61.41	61.43	Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1~2mm石英粒、φ3mm岩片を約5%含むやや軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)、厚さ5~15mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	61.29	61.69				
258	61.43	61.69	Hj 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ[D]のφ5mm岩片と、岩片間の斑点状~細脈状(幅1mm)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)~灰白色(10YR 8/2)、厚さ260m/m(コア長)	61.43	61.69	Hj 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ[D]のφ5mm岩片と、岩片間の斑点状~細脈状(幅1mm)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)~灰白色(10YR 8/2)、厚さ260m/m(コア長) 61.43~61.50mは粘土混じり塊状を呈し、やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 61.50~61.69mは粘土混じり塊状を呈し、やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
259	61.43	61.50	(変質欄)4ランク	61.41	61.50	(変質欄)4ランク	61.41	61.50	(変質欄)4ランク			
260	61.69	62.39	CL 45~60°とこれに斜~直交する割れ目が多いが、62.00m以後ではこれらが消滅しかかっているものが多い。	-	-		61.69	62.39	61.69~62.39m:CL 45~60°とこれに斜~直交する割れ目が多いが、62.00m以後ではこれらが消滅しかかっているものが多い。			
261	61.69	62.13	(コアの硬さ欄)0ランク	61.69	62.13	(コアの硬さ欄)0ランク	61.69	62.13	(コアの硬さ欄)0ランク			
262	62.26	62.39	(コアの硬さ欄)0ランク	62.26	62.39	(コアの硬さ欄)0ランク	62.26	62.39	(コアの硬さ欄)0ランク			
263	62.39	63.75	D 局所的にφ5~20mm硬さ[D]岩片が残留するが、大半が砂状化している。	62.39	63.75	D 局所的にφ5~20mm硬さ[D]岩片が残留するが、大半が砂状化している。	62.39	63.75	62.39~63.75m:D 局所的に径φ2~2mmの硬さ[D]岩片が残留するが、大半が砂状化している。			
264	62.95	-	62.95m以降では粘土化も更に進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。幅1~2mm/白色軟質粘土層が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴い、薄く黒褐色化する。	62.95	-	62.95m以降では粘土化も更に進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。幅1~2mm白色軟質粘土層が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴い、薄く黒褐色化する。	62.95	-	62.95m以降では粘土化も更に進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。幅1~2mmの白色軟質粘土層が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴い、薄く黒褐色化する。			



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
265	63.75	63.85	63.75	63.85	破砕部(最新活動面63.85m)(最も直線的な面)			●63.75～63.85m:破砕部 63.75～63.80m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端3°で波打つ割れ目で、下端46°で波打って連続。径5～10mmの岩片と岩片間の粘土状～砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状呈する。幅30～50mm。 63.80～63.85m:硬質粘土状部(Hb) 上端46°、下端47°でともに波打って連続。径1～3mmの石英粒、径5～20mmの硬さ「D」岩片を20～30%含む。やや硬質な「硬質粘土」状呈する。色調は灰褐色。幅20～35mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
266	63.75	63.80	63.75	63.80	Hj 上端3°で波打つ割れ目で、下端46°で波打って連続。明瞭な粘土脈はない。上位の硬岩部との境界は漸移的。φ5～10mm岩片と岩片間の粘土状～砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状呈する。色調はにぶい褐色(7.5YR 7/3)、厚さ30～50mm。 軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	63.75	63.85		
267	63.80	63.85	63.80	63.85	Hb 上端46°、下端47°でともに波打って連続。直線性に乏しいが、下端の方が直線的である。φ1～3mm石英粒、φ5～20mm硬さ「D」岩片を20～30%含む。やや硬質な「硬質粘土」状呈する。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)、厚さ20～35mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
268	63.85	64.49	63.85	64.49	D φ10～20mm硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30～40%程度)。全体によく締った「砂礫状」を呈する。粘土部は砂状部中にわずかに散在する程度	63.85	64.49	63.85～64.49m: D 径10～20mmの硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30～40%程度)。全体に硬質な砂礫状を呈する。粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度。	-
269	64.49	65.18	-	-	-	64.49	65.18	64.49～65.18m: CH 堅硬・塊状。	-
270	64.63	63.73	64.68	64.73	上端45°、下端30°割れ目に囲まれ片状～角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。	64.68	64.73	64.68～64.73m: 上端45°、下端30°の割れ目に囲まれ、片状～角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。	-
271	65.18	65.36	65.18	65.36	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、締った「砂礫状」を呈する	65.18	65.36	65.18～65.36m: D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、硬質な砂礫状を呈する。	-
272	65.18	65.36	65.18	65.36	(割れ目状脈)をランク (コアの形状欄)Vランク (岩級区分欄)D	65.18	65.36	(割れ目状脈)をランク (コアの形状欄)VIランク (岩級区分欄)CLに含める	-
273	65.36	68.27	65.36	68.05	CL 岩片は堅硬であるが割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。 粘土化部や粘土脈は殆んど含まない。 上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。	65.36	68.05	65.36～68.05m: CL 岩片は堅硬であるが、割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土脈は殆んど含まない。上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。	-
274	65.96	66.01	-	-	-	65.96	66.01	65.96～66.01m: 砂状化が進んでいる。	-
275	65.00	65.17	65.00	65.17	長柱状コア(コア長17cm)	65.00	65.17	65.00～65.17m: 柱状コア(コア長17cm)。	-
276	66.20	68.01	66.20	68.01	上下位に比べ風化がやや進む。	66.20	68.01	66.20～68.01m: 上下位に比べ風化がやや進む。	-
277	66.20	66.39	66.20	66.39	(風化欄)δランク	66.20	66.39	(風化欄)γランク	-
278	66.39	66.65	66.39	66.65	割れ目ぞいに砂状化進む	66.39	66.65	66.39～66.65m: 割れ目ぞいに砂状化が進む。	-
279	66.39	66.44	66.39	66.44	コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の岩片状コアを呈する。	66.39	66.44	66.39～66.44m: コアチューブ引上げ時に乱され、径10mm前後の岩片状コアを呈する。	-
280	66.65	67.00	-	-	-	66.65	67.00	66.65～67.00m: 硬さ「B」の堅硬な岩片も多く含む。	-
281	66.65	68.01	66.65	68.01	(風化欄)δランク	66.65	68.01	(風化欄)γランク	-
282	67.00	67.46	67.00	67.46	落下コア回収のため2度掘りしている。	67.00	67.46	67.00～67.46m: 落下コア回収のため岩片状を呈する。	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
283	67.48	67.63	長柱状コア(コア長15cm)	67.48	67.63	長柱状コア(コア長15cm)	67.48	67.63	67.48~67.63m: 柱状コア(コア長15cm)。
284	67.65	68.12	(色調欄)7.5YR7/3にぶい橙 硬さ「D」岩片主体で一部割れ目そいに砂状化する。	67.65	68.12	(色調欄)10YR6/3にぶい黄橙 硬さ「D」岩片主体で一部割れ目そいに砂状化する。	67.65	68.12	(色調欄)にぶい黄橙 67.65~68.05m: 硬さ「D」の岩片主体で一部割れ目そいに砂状化する。
285	67.65	68.01		67.65	68.05		67.65	68.05	
286	68.00	69.00	(ROD欄)0 (最大コア長欄)4	68.00	69.00	(ROD欄)12 (最大コア長欄)12	68.00	69.00	(ROD欄)12 (最大コア長欄)12
287	68.01	-	68.01m以深は割れ目換在物は殆んど分布しない。	68.01	-	68.01m以深は割れ目換在物は殆んど分布しない。	-	-	-
288	68.01	68.05	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク	68.01	68.05	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Dランク	68.01	68.05	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Dランク
289	68.05	68.12	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク	68.05	68.12	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)δランク	68.05	68.12	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)δランク
290	68.12	68.34	(色調欄)7.5YR7/3にぶい橙	68.12	68.34	(色調欄)7.5YR6/2灰褐	68.12	68.34	(色調欄)灰褐
291	68.12	68.27	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	68.12	68.27	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク	68.12	68.27	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク
292	68.27	68.34	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (実質欄)4ランク (岩級区分欄)D	68.27	68.34	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)δランク (実質欄)2ランク (岩級区分欄)CL	68.27	68.34	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)δランク (実質欄)2ランク (岩級区分欄)CL
293	68.34	68.39	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)βランク (岩級区分欄)CM	68.34	68.39	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)δランク (岩級区分欄)CL	68.34	68.39	(割れ目状態欄)hランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)δランク (岩級区分欄)CL
294	68.27	68.34	破砕帯(主せん断面68.27m)	68.27	68.34	破砕帯(主せん断面68.27m)	-	-	-
295	68.27	68.27	Hc-1 41°で上端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒を ごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(カウソ)。色調は 淡黄(2.5Y 6/3)、厚さ1~2m/m	68.27	68.27	Hc-1 41°で上端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒を ごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(カウソ)。色調は 淡黄(2.5Y 6/3)、厚さ1~2m/m	-	-	-
296	68.27	68.34	Hj 上端41°で直線的に、下端20~40°で湾曲し、一 部、灰黄褐(10Y 5/2)幅1~5m/m軟弱粘土層として 連続。主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交す る割れ目でφ5~10m/mに細片化した岩片と岩片間 の一部が幅1m/m白~淡黄色軟弱粘土脈からなり 「粘土混じり岩片」状を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ65m/m	68.27	68.34	Hj 上端41°で直線的に、下端20~40°で湾曲し、一 部、灰黄褐(10Y 5/2)幅1~5m/m軟弱粘土層として 連続。主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交す る割れ目でφ5~10m/mに細片化した岩片と岩片間 の一部が幅1m/m白~淡黄色軟弱粘土脈からなり 「粘土混じり岩片」状を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ65m/m	-	-	-



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)			選定した記事内容			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
297	-	-	68.02	68.06	破砕部(最新活動面68.05m)			●68.02~68.06m:破砕部 68.02~68.05m:砂混じり礫状部(Hj) 上端40°で不明瞭に連続。下端41°で直線的に連続。密細な割れ目が発達し、一部の岩片は下位の粘土と同方向に方向性を示す。にぶい橙色を呈する。幅25mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
298	-	-	68.02	68.05	Hj 上端40°で不明瞭に連続。下端41°で直線的に連続。やや硬質で、微細な割れ目が発達し、一部の岩片は下位の粘土と同方向に方向性を示す。脈状の細粒部はみられない。砂混じり礫状を呈する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。にぶい橙色を呈する。幅25mm。	68.02	68.06	68.05~68.06m: 礫混じり粘土状部(Hc-2) 上端41°で直線的に連続。下端30°で波打って連続。上端には径1mmの石英粒をごく少量(5%以下)含む幅1~2mmの淡黄色軟質粘土を伴う。明褐色を呈する。幅10mm。	
299	-	-	68.05	68.06	Hc-2 上端41°で直線的に連続。下端30°で波打って連続。やや軟質で、上端には、φ1mm石英粒をごく少量(5%以下)含む幅1~2mmの淡黄色軟質粘土を伴う。全体的には礫混じり粘土状を呈する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。明褐色を呈する。幅10mm。				
300	-	-	68.06	68.12	粘土混じり礫状を呈するが、硬質で岩片間に分布する粘土脈に系統性がなく、原岩組織が明瞭に認められる。	68.06	68.12	68.06~68.12m:粘土混じり礫状を呈するが、硬質で岩片間に分布する粘土脈に系統性がなく、原岩組織が明瞭に認められる。	
301	68.27	68.27	68.05	68.06	(破砕度区分欄)Hc-2	68.05	68.06	(破砕度区分)Hc-2	
302	68.27	68.34	68.02	68.05	(破砕度区分欄)Hj	68.02	68.05	(破砕度区分)Hj	
303	68.34	68.69	68.39	68.30	CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。挟在物は少ないが、69.30~69.40m間の90°割れ目にごく薄い砂状部をはさむ。	68.39	69.30	68.39~69.30m:CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。挟在物は少ない。	
304	68.34	68.38	68.12	68.39	軟化著しい 岩片状を呈し、軟質化著しい	68.12	68.39	68.12~68.39m:岩片状を呈し、軟質化が著しい。	
305	69.30	69.50	69.30	69.56	(コアの形状欄)IVランク	69.30	69.56	(コアの形状欄)Vランク	
306	69.30	69.69	69.30	69.69	(割れ目状態欄)hランク (岩級区分欄)CM	69.30	69.69	(割れ目状態欄)cランク (岩級区分欄)CL	
307	69.69	69.95	69.30	69.95	CL	69.30	69.95	69.30~69.95m:CL	
308	69.69	69.95	69.69	69.95	(変質欄)3ランク	69.69	69.95	(変質欄)2ランク	
309	69.81	69.95	69.81	69.95	割れ目ぞいに砂状化進みφ10~20m/m岩片を含む「砂礫状」を呈する	69.81	69.95	69.81~69.95m:割れ目ぞいに砂状化が進み、径10~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。	
310	69.95	71.06	69.95	71.06	CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57°と70.70m・60°割れ目に囲まれて片状化する。前者の割れ目では面ぞいに幅1~2m/m砂状化。φ0.5~1m/mの雲母(セリサイト)が晶出している。	69.95	71.06	69.95~71.06m:CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57°と70.70m・60°の割れ目に囲まれて片状化する。前者の割れ目では面ぞいに幅1~2mmで砂状化する。径0.5~1mmの雲母(セリサイト)が晶出している。	
311	71.06	71.88	71.06	71.88	CL 30°と60~75°割れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60m/mで締った砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。	71.06	71.88	71.06~71.88m:CL 30°と60~75°の割れ目が交差し、交差部の一部では幅10~60mmで硬質な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。	
312	71.88	76.11	71.88	76.11	CM 一部で風化による砂状部を幅2~3m/mで挟むが、挟在物が分布しない割れ目が多い。	71.88	76.11	71.88~76.11m:CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物を伴わない割れ目が多い。	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
313	72.48	74.57	割れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。	72.48	72.57	割れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。	72.48	72.57	72.48~72.57m: 割れ目ぞいに褐色化が進むが、硬質で砂状化はない。	-
314	74.57	73.16	長さ10cm以上の硬質コア主体	72.57	73.16	長さ10cm以上の硬質コア主体	72.57	73.16	72.57~73.16m: 長さ10cm以上の硬質コア主体。	-
315	73.20	75.00	20~30°と60~70° 割れ目が交差。交差部の一部で片状~角礫状化するが砂状部や粘土部は伴わない。	73.20	75.00	20~30°と60~70° 割れ目が交差。交差部の一部で片状~角礫状化するが砂状部や粘土部は伴わない。	73.20	75.00	73.20~75.00m: 20~30°と60~70°の割れ目が交差し、交差部の一部で片状~角礫状化するが、砂状部や粘土部は伴わない。	-
316	74.85	75.00	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	74.85	75.00	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	74.85	75.00	74.85~75.00m: 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	-
317	75.65	75.92	内部に冲着割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ26cmのコア	75.65	75.92	内部に冲着割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ27cmのコア	75.65	75.92	75.65~75.92m: 内部に冲着割れ目や密着度の低い割れ目を伴わない長さ27cmのコア。	-
318	76.11	77.02	CL 割れ目が交差しφ10~30m/mの片状~角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目ではφ2~5m/mの細礫状に幅10mm/m以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。	76.11	77.02	CL 割れ目が交差しφ10~30mmの片状~角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目ではφ2~5mmの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。	76.11	77.02	76.11~77.02m: CL 割れ目が交差し径10~30mmに片状~角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目では径2~5mmの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。	-
319	77.02	79.47	CM 全区间硬質であるが、77.43m~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30m/m前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。	77.02	79.47	CM 全区间硬質であるが、77.43m~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。	77.02	79.47	77.02~79.47m: CM 全区间硬質であるが、77.43~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃で径30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け、割れ目の面の一部は黒褐色化する。	-
320	77.21	77.21	交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3mm砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。	77.21	77.21	交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3mm砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。	77.21	77.21	77.21m: 交差する2本の割れ目の一部は、幅2~3mmで砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。	-
321	78.00	-	78m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。	78.00	-	78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。	78.00	-	78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目が分布する。	-
322	78.40	78.40	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	78.40	78.40	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	78.40	78.40	78.40m: 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	-
323	79.00	-	79m以深は長石既晶の白濁化が多い。	79.00	-	79.00m以深では長石既晶の白濁化が多い。	79.00	-	79.00m以深では長石既晶の白濁化が多い。	-
324	79.10	79.10	40° 割れ目ぞい幅10~15m/mが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5mm以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。	79.13	79.13	40° 割れ目ぞい幅10~15mmが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5mm以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。	79.13	79.13	79.13m: 40°の割れ目ぞいに幅10~15mmが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5mm以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。	-
325	79.00	80.19	(変質欄)3ランク	79.00	80.19	(変質欄)2ランク	79.00	80.19	(変質欄)2ランク	-
326	79.47	80.19	CL 30~50°と70° 割れ目が交差。交差部の一部でφ10m/m程度に細片状化。 70° 割れ目の一部に幅2~3m/mの淡黄~褐色粘土脈はさむ。	79.47	80.19	CL 30~50°と70° 割れ目が交差。交差部の一部でφ10mm程度に細片状化。 70° 割れ目の一部に幅2~3mmの淡黄~褐色粘土脈はさむ。	79.47	80.19	79.47~80.19m: CL 30~50°と70°の割れ目が交差し、交差部の一部は径10mm程度に細片状化する。70°の割れ目の一部に幅2~3mmの淡黄~褐色粘土脈はさむ。	-
327	79.83	79.90	割れ目ぞいに砂状~φ2~5m/m細片状化進む。少量の粘土も伴う。	79.83	79.90	割れ目ぞいに砂状~φ2~5mm細片状化進む。少量の粘土も伴う。	79.83	79.90	79.83~79.90m: 割れ目ぞいに砂状~径2~5mmの細片状化が進む。少量の粘土も伴う。	-
328	80.19	80.48	CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる。割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-	80.19	80.48	80.19~80.48m: CM 一部に密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	-
329	80.19	80.48	(岩級区分欄)CM	80.19	80.48	(岩級区分欄)CH	80.19	80.48	(岩級区分欄)CHに含める	-